

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-Kouhei.org



皆さん、こんにちは。今月の「耕平さんかわら版」は六十号・六十一号合併号です。来月は表面の「弘法さんかわら版」だけになります。裏面には、「弘法さんかわら版」のバックナンバーリスト(創刊号から六十号のタイトル)をご紹介します。あしからずご了承ください。

さて、「消えた年金」問題が国民の関心を呼んでいます。不安を抱えている方も多いことと思います。

十一日の月曜日に参議院決算委員会で安倍首相と質疑を行いました。僕としては、安倍さんに事態の重大さ、規模の大きさを認識して頂きたいという思いで議論させて頂きました。その際のポイントは次のとおりです。

五千万件の誰のものか分からない年金手帳記号番号の件数。もう少し具体的に言えば、誰のものか分からない年金手帳が五千万冊あるということ。驚きです。転職経験のある人、結婚して姓が変わった人などが該当者に含まれている可能性が高いようです。

さらに驚きなのは、柳沢厚生労働大臣が、これらの年金手帳で総額いくらの保険料が納付されたかが分からないと述べていることです。でも、計算すればある程度は想像できます。そこで、安倍さんに「月二万円の保険料をひと月だけ納付したとして、五千万冊でいくらになりますか」と質問しました。安倍さんは自分では答えませんでした。算数の得意な小学生でもできる計算です。答えは一兆円。ビックリです。

ひと月だけ納付ということはないでしょう。一年12ヵ月とすれば十二兆円、二年24ヵ月とすれば二十四兆円です。平均で何ヶ月かは分かりませんが、要するに、これだけの規模の保険料が誰のものか分からないまま納付され、既に他の人の給付などに使われているということ。安倍さん、柳沢さんは、この重大さ、規模の大きさをお分かりいただけただけでしょうか。年金制度を事業として考えれば、入出金の記録をつける

のは当たり前。保険料総額が分からないということは、入金記録がないということであり、空いた口が塞がりません。おまけに、年金給付額も本来の金額に足りない受給者が多数いることが明らかになりました。新たな顧客を次々と集めることで資金繰りをつけ、支払いも約束どおりに行わないという姿は、あまり良い喻えではありませんが、「ネズミ講」と同じです。しかし、少子高齢化で新規加入者が減少するので、実際は「ネズミ講」よりもさらに危ない構造になっているとも言えます。

国民の皆さんに安心、納得していただくためにも、この際、安倍さんには「年金制度緊急事態」を宣言していただき、全く新しい制度をつくることをお勧めします。僕自身は税方式の年金制度に移行すること、徴収洩れもなく、納税額に応じた給付が確実に行われる「簡便で信頼できる制度」が構築できると考えています。引き続き、国会で十分に議論していきます。頑張ります。

かわら版執筆者

大塚耕平

1959 年生まれ。日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。その後、旭丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行で18年間勤務。2001 年から参議院議員。翌年、地元の覚王山に事務所を開き、故郷・覚王山の地域振興と歴史・文化遺産の継承・復興のために、「弘法さんかわら版」を書き始めました。今年で足かけ 6 年目。日銀時代に母校の大学院博士課程を修了(学術博士)。現在は早稲田大学と中央大学大学院の客員教授も務めています。今年の暮れには、「第 3 回・弘法さんを語る会」を開催する予定です。乞うご期待(秋頃のかわら版でご案内します)。

「念金問題」

